（様式２－２）

令和5年度「校内サポートルーム（KSR）研究指定校事業」 成果報告書

１　指定校・指定校群　　（　坂出市立坂出小学校　）

２　実施の内容

⑴ 校内の環境整備と支援体制

ＫＳＲとしての部屋を１階に１部屋と３階に２部屋，合わせて３部屋を設けている。それぞれの部屋には，個別学習ができるスペース，ペア・グループ活動ができるスペース等を設けており，児童が，その日の活動や自分の気持ちに合わせてどの部屋，どのスペースで過ごすか選択できるようにしている。＜図1＞ＫＳＲ担当と学級担任，養護教諭，養護助教諭が連携を取り，どの子も学校で安心して，学習や生活ができるように日々支援している。

＜図1＞カーテンで区切ることのできる個別学習スペース

⑵ ＩＣＴ機器を用いた支援

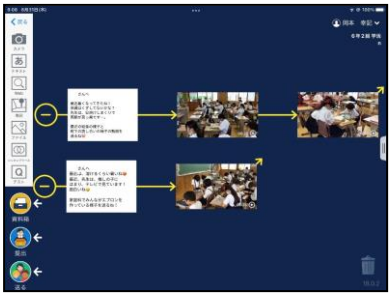
① Ｗｅｂ会議システムを用いたオンライン授業

ＩＣＴ機器を用いることで，どの部屋においてもいつでも学級での授業の様子をオンラインで視聴できるようにしている。そうすることで，教室に入れない児童も，その授業を受けることができた。ＫＳＲでの少人数による学習では，多様な意見が出にくいという欠点があったが，画面を通して友だちの意見に触れることができ，学びが深まった。

今後は，児童にＩＣＴ機器を貸し出し，学校に登校できない場合でも学習を保障したり，学校とのつながりを構築したりしていきたい。

② 学習支援アプリを用いた児童とのやり取り

学習支援アプリを用いて，学級担任やＫＳＲ担当と児童がいつでもテキスト送信機能でやりとりができるようにしている。 ＜図2＞その機能を活用し，学習の様子を確認したり，授業の板書を送ったりした。そうすることで，児童の学習状況に応じた支援を行うことができた。



＜図2＞欠席した児童にメッセージと画像を送付

⑶ 個に応じた支援

ＫＳＲには，複数学年の児童が在籍しているため，学習や人間関係の構築などに対する支援の在り方は，一人一人変える必要がある。そこで，個に応じた支援に重点を置き，㋐学習支援　㋑生活支援・社会性の向上　㋒心理面のケアの３つを目標にアプローチを行うことにした。

㋐学習支援においては，１学期は，自分の在籍する学級の時間割をもとに，各自学習を進めた。１日のスケジュールをボードに書き込み，１日の流れを可視化できるようにして取り組んだ。各時間の過ごし方は，学級と全く同様にするのではなく，担当教員と児童とで話し合いながら自分のペースに合わせて，決めていけるようにした。＜図3＞

＜図3＞自分のペースで学習する児童

また，個々に課題に取り組むだけでなく，学級に戻った時にできるだけ負担がかからないように，学級と同じような一斉の形式で授業することも取り入れた。その結果，担当教員と一緒に学級に入って学習することができた児童もいた。さらに，どのような学習に取り組んだのかを教師側が残していくファイルを作成

した。これを活用し，教員間で情報共有をしたり，活動内容の引継ぎをしたりし，どの教員がＫＳＲで対応することになっても，児童が混乱しないことを目指した。

㋑生活支援・社会性の向上においては，様々な人と関わることを大切にしている。給食の時間や休み時間等には学級や学年の友達との関わりを促し，繋がる場としている。また，２学期から毎月・毎学期の目標を立て，カレンダーに達成したかどうかを目に見える形で残していくようにした。生活面の目標に加え学習の足跡も残るように，その日に何の教科に取り組んだのかも記録していくようにした。＜図4＞日々の頑張りを可視化することで，自らの成長に気付くとともに，目標をもって取り組むことの大切さに気付く姿も見られた。

＜図4＞「学びの足あと」コーナーと目標を記したカレンダー

㋒心理面のケアにおいては，養護教諭や養護助教諭，スクールカウンセラー（以下ＳＣ），と連携をとり，様々な立場から児童と積極的に関わり，信頼関係を築いている。教師は，その都度児童の悩みを聞き，解決方法を提案している。ＳＣは，個別のカウンセリングやアセスメント等の支援をしている。チームとして児童の細かな変化に気付き，迅速かつ適切に対応するために，必要に応じて臨時の担当者会を開き，共通理解を図ったり，個々の支援に役立てたりした。また，問題が起こった場合は，その都度情報を共有し，すぐに対処するようにした。

３　成果

⑴ 校内サポートルームにおける児童の様子

- 玄関を通らなくても入室できる１階にＫＳＲを置いたことで，友だちに見られずに登校することが可能であった。その結果，多くの児童が抵抗なく登校できるようになった。
- 集中して学習したい時や一人になりたい時など，他の部屋やカーテンの仕切りがあることで，より安心して過ごすことができた。また，養護教諭・助教諭と連携し保健室も居場所の一つとしたので，話を聞いてもらったり，心を落ち着けたりする場所となった。安心できる場所が複数確保できることは，子どもたちにとって大きな強みとなっている。

⑵ 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- 学習用のプリント類は，様々な学年のものを用意した。自分の課題に合わせて，学年を戻ってプリントを選択し復習できるようにしたことで，「思い出してきた！」と，自信をもって主体的に取り組む姿が見られた。また，ＩＣＴ機器を活用して前向きに学習する児童の姿も見られた。
- 学級担任と連携し，学習内容や行事に向けての準備など内容を揃えることで，テストに向けて自主学習に取り組んだり，年度始めには消極的に考えていた修学旅行や学習発表会などの行事に参加したりすることができた。

⑶ 総括

ＳＣや養護教諭など，様々な立場の方と連携し，担当者会を重ねて児童の困り感を解消しようと取り組んだことで，一人一人の支援の仕方が見えてくるようになった。保護者から，「ＫＳＲがあるから登校できている。」という意見も頂いた。来年度もＫＳＲの運営に取り組んでいきたい。